

地域農業における社会貢献型事業の展開と可能性

コーディネータ：伊庭治彦（神戸大学） 座長：北川太一（福井県立大学）

片岡美喜（高崎経済大学）「社会貢献型事業と農村コミュニティの維持・発展に関わる実践的取組」

西山未真（千葉大学）「農村コミュニティ再編とソーシャルビジネスの展開—高知県四万十川流域を事例として—」

今井裕作（島根県農業技術センター）「島根県における地域貢献型集落営農の推進—地域よろず屋としての機能と今後の可能性—」

高橋明広（中央農業総合研究センター）「集落営農組織における社会貢献型事業が構成員の組織貢献意欲に及ぼす効果—集落営農合併組織を素材に—」

伊庭治彦（神戸大学）「米国の家族農場による社会貢献型事業に関する考察—再生可能エネルギープロジェクトを事例として—」

（セッションの趣旨）

本セッションの課題は、農村地域の疲弊が進む中で、農業経営体や農村コミュニティ等が社会貢献を目的とする農業生産や農業関連事業、あるいは新たな領域の事業を行うことの今日的意義を明らかにしつつ、今後の展開方向と可能性を検討することである。ついでには、当該事業の継続性を確保するための事業構造、および事業効果の有り様を視点として課題への接近を図る。併せて、「社会貢献型事業」を、その類似する概念である「公益的事業」、「非営利事業」、「コミュニティービジネス」、「ソーシャルビジネス」等を包括する概念として用い、農村社会における多様な取り組みを比較検討するための分析枠組みの構築を試みる。なお、本セッションは 5 つの報告から成り、農村コミュニティと集落営農を事業主体とする報告をそれぞれ 2 つ、これら報告の比較対象として国外の家族農場を事業主体とする報告 1 つを用意する。